

自立活動(コミュニケーション)における ICT 活用

「ウェアラブルカメラを活用した自己の振り返り～気づきから課題意識へ～」

子どもについて	所属・学年	特別支援学校・高等部 2年
	障がい名等	知的障がい
	子どもの実態 (学习上又は生活上の困難さ等)	<ul style="list-style-type: none"> ・場や相手の状況に応じ、伝える側と受け取る側との人間関係を大切にしながらか主体的なコミュニケーションを展開することが難しい。 ・思考を言葉にして目的に沿って話すことや他者の視点に立って考えることが苦手である。 ・会話の内容や周囲の状況を読みとることが難しい場合があるため、状況にそぐわない受け答えをすることがある。(相手の気持ちや状況を考えず、自分が話したいことを一方的に話してしまう。) ・一斉指導の場面で、教師が全体に話をしている際に聞いていない場面が多く見られる。(呼名されると聞くことができる。)
授業について (教材・教具を使用した授業や指導場面)	教科名等	自立活動 (状況に応じたコミュニケーションに関すること)
	単元(題材)名	単元名「トーキングゲームをしよう。」
	単元(題材)の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・順番に話し手、聞き手となり、質問カードに書かれた質問に答えるといった「トーキングゲーム」を通して、人に話を聞いてもらえる安心感と相手の話を聞く楽しさに気付く。 ・話を聞く際のルールとして、相手の話を最後まで黙って聞くというルールを守って活動に取り組む。 ・聞き手は、「う・め・ら・い・ス」を意識して聞く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>『う』うなずく 『め』目を見る 『ら』ラストまで 『い』いっしょうけんめいに 『ス』スマイルで</p> </div>
教材・教具 支援機器について	教材・教具 支援機器	<p>ウェアラブルカメラをヘッドストラップで装着</p> 
	ねらい・工夫点	<p><ねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> ○会話は、相手がいることから成り立ち、うなずきや目線、最後まで聞こうとする姿勢や態度などが、円滑なコミュニケーションのために必要な要素であることがわかる。 ○自分の話し方、聞き方を目線カメラで撮影した動画をもとに客観的に振り返ることで、自己の課題に気付くとともに、適切なコミュニケーションの取り方について ICT 機器を活用しながら実践的・体験的に学ぶ。 <p><工夫点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウェアラブルカメラを本人の視線と同じ位置になるように頭部へ装着する。 ・「う・め・ら・い・ス」を意識して行っていたかについて、友達と一緒に撮影した動画と振り返りシートをもとに客観的に確認・評価できるようにする。(自己評価と他者評価)
	材料・作成方法等	ワークシート、振り返りシート、ウェアラブルカメラ、ヘッドストラップ、アプリ「GoProQuik」、大型モニタ
子どもの変容や評価	<ul style="list-style-type: none"> ・話し手の顔を意識して見ようとしたり、うなずいたりする姿が少しずつ見られるようになってきた。 ・教師との日常生活場面の会話の中で、「話が一方的になってしまいましたね。」と自分で気付く場面が見られた。 ・自分の話し方、聞き方について課題意識をもつことに繋げることができた。 <p>⇒ ICTの活用による協働的な学びによる気づき ⇒ 個々の課題意識へ</p>	